

現代図書館学講座 2

図書館資料論

監修 北嶋武彦

図書館資料論

監修 北嶋武彦

共著 前園主計

北嶋武彦

河井弘志

菅原春雄

吉澤輝夫

現代図書館学講座 2

図書館資料論

昭和58年 9 月22日 第 1 版第 1 刷発行

橡 印
省 略

著 者 前園主計 北嶋武彦 河井弘志
菅原春雄 吉澤輝夫

発行者 東京書籍株式会社
代表者 小高民雄

印刷者 東京書籍印刷株式会社
代表者 鹿島 博
東京都北区堀船 1 丁目23番31号

発行所 東京書籍株式会社
東京都台東区台東 1 丁目 5 番18号(〒110)

2300-584002-5313

定価1500円

©, Shukei Maesono, 1983

Printed in Japan

現代図書館学講座 2

図書館資料論

は し が き

図書館資料は、あらゆる図書館活動の根源であり、エネルギー源である。従って、図書館活動の成否の大半は、それぞれの図書館が選択・収集した資料の一つ一つが質的に優れ、利用者の要求に即したものであるとともにバランスのとれた資料構成であることが必要である。また、従来からの伝統的資料形態である図書・新聞・雑誌・パンフレット・リーフレットなどの印刷資料のほか、フィルム・スライド・トランスペアレンシー・レコード・録音テープ・ビデオテープなどの視聴覚資料はもちろん、近年、急速に開発されつつある磁気ディスクなどのいわゆる“ニュー・メディア”の収集と活用についても大いに意を払う必要がある。

このように多種多様で、今後ともその傾向を強めていくと思われる各種の資料について、図書館資料としての特性、生産と流通のメカニズム、選択・収集上の留意点、資料構成の在り方などに関し、十分な知識と必要な技能を備えることは図書館専門職員の必須要件である。

本書は、大学・短期大学の司書課程や司書講習などで図書館学を履修する人びとが「図書館資料論」で上記の諸点を学ぶ際のテキストとして編集されたものである。幸い、執筆者に多くの適材を得、上梓することができたことに感謝するとともに、今後の充実のため、読者各位の温かい御援助と御批正を希望するものである。

昭和58年9月

北 嶋 武 彦

監修者

前大東文化大学教授 渡邊正玄

東京学芸大学教授 北嶋武彦

大谷女子大学教授 中嶋正夫

編集委員

茨城女子短期大学助教授 林 收正

女子聖学院短期大学講師 長谷川宏

前茨城女子短期大学講師 吉澤輝夫

国会図書館連絡部国際交換課長 中森 強

帝塚山短期大学教授 和田弘名

執筆者及び執筆分担一覧

青山学院女子短期大学助教授 前園主計（3章1節，5章）

東京学芸大学教授 北嶋武彦（3章2節）

立教大学文学部教授 河井弘志（4章2節）

文教大学女子短大部講師 菅原春雄（1章1節，4章1節）

前茨城女子短期大学講師 吉澤輝夫（1章2節，2章，3章3節）

目 次

第1章	序 説	8
第1節	図書館資料概説	8
	図書館資料論の範囲／図書館資料の意義／図書館資料の類型／図書館資料の特性	
第2節	図書の歴史	16
	図書の定義／図書の特質／文字代行の伝達方法／文字の形成／地域・資材別に見る図書の変遷／画期的な紙の発明／木版印刷から活字印刷へ／現代の印刷／印刷から製本へ	
第2章	図書館資料の流通	42
第1節	日本の出版概況	42
第2節	資料の流通	46
第3節	取次の機能と役割	49
第4節	戦後ベストセラーの軌跡	53
第5節	知的自由について	67
第3章	図書館資料の評価と選択	74
第1節	図書選択論	74
	図書選択論の変遷／館種別図書選択の考え方	
第2節	資料の評価	84
	意義と方法／図書の一般的评价基準／参考図書の評価基準／小説の評価基準／マンガの評価基準／新聞・雑誌の評価基準	
第3節	評価のためのツール	99

新聞・テレビ／文学賞・文化賞／図書推薦機
関一覧／出版社発行 PR 誌／各種図書目録一
覧

第 4 章	蔵書構成	110
第 1 節	蔵書構成の基本的考え方	110
	基本的考え方／基準	
第 2 節	蔵書構成の諸問題	120
	図書選択と蔵書構成／図書館の目的／蔵書構 成方針／蔵書評価	
第 5 章	図書館資料の収集・受入・保管	131
第 1 節	収 集	131
	収集の意味／収集計画／収集活動／図書選択 委員会	
第 2 節	受 入	140
	選択後の処理／仕分／受入の意味／受入の種 別／受入作業／受入統計	
第 3 節	装備・配架	153
	装備の意義／装備の種類／配架	
第 4 節	保管・除籍	167
	保管／蔵書の保護／製本・修理／点検／除籍	
索 引		181

圖書館資料論

第1章 序 説

第1節 図書館資料概説

1. 図書館資料論の範囲

図書館資料論で取り扱うべき範囲について、日本図書館協会が図書館学講義要綱として作成した「図書館員指導資料・司書講習講義要綱案」の中で図書館資料論の内容として次のように例示している。

- (1) 図書館資料の種類とその特性
- (2) 選択の基準とその着眼点及び主要参考資料の利用法
- (3) 資料の生産と流通(外国事情にも触れる)
- (4) 蔵書構成の諸問題
- (5) 資料の受入と払出
- (6) 資料の維持管理

しかし、図書館資料全般の特質と言うからには、昨今の情報化時代における多種多様な資料の特質も把握できなければ意味がなく、そこで、昭和51年日本図書館協会図書館学教育部会が、資料整理法特論とも関連づけ、また上記の講義要綱と性格を異にするものとして「図書館学教授要目」を刊行した。

この「図書館学教授要目」では図書館資料論について「図書館資料は図書館機能の全体の問題であることを、図書館政策のうえから、また社会活動の基礎としても考えねばならない。それで図書館資料の社会における役割を検討し、情報源としての発展から性質を論じ、その収集と利用・選択と出版流通の問題点を明らかにし、また具体的な個々の問題点を解決して、日常業務に結びつけるよう学習させる必要がある」と述べ、次のような内容を取り上げている。

- I 情報と図書館資料
- II 知的自由の問題
- III 蔵書構成
- IV 図書の評価

- V 逐次刊行物
- VI 政府刊行物
- VII 児童・青少年の読書資料
- VIII その他の図書館資料
- IX 資料収集のツールと実務
- X 出版事情

しかしながら、本書第2巻の図書館資料論では、主として図書を対象とした資料論を論究する。

それは、図書館資料が質量ともに多様化した今日でも図書は図書館資料の中心であり、かつ、本講座では児童・青少年の資料については第7巻で、逐次刊行物及び郷土資料については第8巻で取り上げているからである。

2. 図書館資料の意義

図書館資料はいずれの図書館においても、その図書館を構成する重要な要素であることは言うまでもない。図書館が立派な施設を備え、優秀な図書館専門職員が配置されていたとしても、優れた図書館資料を備えていなければ、図書館の役割を果たすことはできない。

図書館は、人類の文化遺産としての図書館資料を後世に伝え、保存し、利用に供する使命を持っており、すべての知的情報を求める人たちに提供する機関であり、そこに働く人びとはその要求にこたえるべき使命を持っている。

図書館法第2条によれば、「図書館とは、図書・記録その他必要な資料を収集し、整理し、保存して、一般公衆の利用に供し、その教養、調査研究、レクリエーション等に資することを目的とする」とあり、図書、記録その他必要な資料の重要性を強調している。

図書館法では公共図書館における資料収集を中心としているが、各館種によって図書館資料は図書だけでなく、それぞれの図書館の性格、目的によって収集すべき資料の種類が異なってくることは言うまでもない。

また、同法第3条第(1)項には、収集と利用について、次のように述べている。「郷土資料、地方行政資料、美術品、レコード、フィルムの収集にも十分

留意して、図書、記録、視聴覚教育の資料その他必要な資料(以下「図書館資料」と言う)を収集し、一般公衆の利用に供すること」とあり、収集する図書館資料の種類を挙げている。

ここでは公共図書館における図書館資料の意義及び必要性を述べたが、他館種でも基本とするところは同様である。

図書館員は資料を扱う職能であるからには、資料に対する知識を常に修得していなければならない。図書館員の倫理綱領にも、資料の知識や不断の研修ということが記されているが、常にその体制に取り組む姿勢、認識がなければならないことを強調しておく。

3. 図書館資料の類型

図書館資料とは何かという見解、主張は論者によって異なるが、大同小異で形態上は同じであると言える。しかし、初めて図書館学を学ぶものにとっては理解しにくいので、一応、主要な類型を紹介しておく。

類型は、資料取り扱い上、形態上、利用手段上等に分けられるが、図書館学の参考書に再三引用されるものとして、渡邊正玄氏の図書館資料類型化の一例を紹介する。

- (1) 貸し出してもよい普通図書
 - ① 小 説
 - ② 非小説
- (2) 定期刊行物・新聞類
 - ① 新 刊
 - ② 製本済雑誌・マイクロフィルム・リール
- (3) 参考図書類
 - ① 辞書及び百科事典
 - ② 書誌類
 - ③ 定期刊行物及びその他の索引類
 - ④ 年報・ハンドブックの類
 - ⑤ 伝記事典・歴史事典類

- ⑥ 地図・地名事典類
- (4) 小冊子・切り抜きの類
 - ① (図書と同架の)分類した小冊子類
 - ② 政府刊行物
 - ③ 垂直整理函資料
 - (i) 新聞の切り抜き等
 - (ii) 小冊子類・政府出版物類
- (5) 視聴覚資料
 - ① 写真及び地図
 - ② スライド及びフィルムストリップ類
 - ③ 映画フィルム類
 - ④ マイクロカード・マイクロフィルム類
 - ⑤ 円盤・テープ及びワイヤーレコード類
 - ⑥ 地球儀・模型・標本類

また椎名六郎教授の述べた類型を紹介する。

椎名氏は図書館資料の類別を8つに分けている。

- (1) 情報生産の利用順位によるもの
 - ① 一次情報生産源
単行本・新聞・雑誌・その他の逐次刊行物・論文集・報告書・講演集・議事録・公報・判例・統計書・紀要・目録・抄録・索引・書誌・年鑑・図画・視聴覚資料
 - ② 二次情報生産源
一次資料を利用目的によって編成し直し、組み合わせ等を工夫・加工したもので、専門図書館では特にこの類の資料が利用されている。
リスト・目録・総合編集した翻訳・複写類
- (2) 人間の認識経験によるもの
 - ① 視覚資料(人間の視覚経験によって理解するもの)
絵画・写真・絵図・ポスター・紙芝居・人形芝居・幻灯画・フィル

ム・マイクロフィルム・マイクロカード・マイクロフィッシュ・模型・標本・実物等

- ⑤ 聴覚資料(人間の聴覚経験によって理解するもの)

テープレコーダー・レコード・シンクロリーダー・ラジオ

- ⑥ 視聴覚資料(人間の視覚聴覚の両面にわたる経験によるもの)

テレビ・映画・音声テープ (VTR)

- ⑦ 触覚資料(人間の触覚経験によって理解するもの)

点字図書

- (3) 空間的形態によるもの

- ① 平面的資料(一枚もの・地図・絵図)

- ② 立体的資料(紙芝居・幻灯・マイクロフィルム・マイクロカード・テレビ・ラジオ・模型・標本・郷土資料の考古品・掛け軸・ポスター・掛け図)

- (4) 時間的経過によるもの

- ① 古文書・記録・歴史的資料

- ② 考古資料・その地域で生産された実物

- (5) 生産源の地域性によるもの

- ① 中央行政資料

- ② 地方行政資料

- ③ 郷土資料(模型・標本・考古資料・博物館資料)

- (6) 国の生産源の類型によるもの

- ① 立法資料(議事録など)

- ② 行政資料(各種公報・特許公報・白書・官報など)

- ③ 司法資料(判例など)

- (7) 印刷物の形体によるもの(生産の形体)

- ① 図書資料(単行本)

- ② 図書外の資料(単行本以外)

- (8) 生産の速度によるもの(刊行度)

- ① 単行本

- ② 雑誌・新聞

㉔ Document 類

次に渡邊正玄氏はその類型を別な型で例示している。

(1) 図書資料

- (a) 図書 普通の単行本・叢書類
- (b) 逐次刊行物 年報・年鑑・報告・議事録・会報・官公庁の報告・月報・統計報告など
- (c) 記録 古文書・写本・日記・記録・古い時代の文書・手写した図書など

図書以外の資料

- (a) 特殊資料 新聞・雑誌・パンフレット・リーフレット・切り抜き・マイクロフィルム・マイクロカード・写真・複写など
- (b) 視聴覚資料 絵画・写真・絵はがき・地図・掛け図・グラフ・ポスター類・紙芝居・スライド・映画フィルム・ラジオ、テレビ番組と解説資料・レコード・録音テープ・トランスペアレンシー・模型・地球儀・天体儀・標本・美術品・実物(出土品・工芸品・民族資料・切手・機械など)

(2) 記録材料面から

- ① 動物質資料 亀甲・角・骨
- ② 植物質資料 木・竹・布・紙
- ③ 鉱物質資料 粘土・瓦・石・金属
- ④ 化学製資料 フィルム・合成樹脂

(3) 情報の生産・提供面から

- ① 一次資料 単行本・逐次刊行物・定期刊行物・特許・文献・学位論文・学術報告
- ② 二次資料 定期刊行物・書誌・参考図書・教科書・一般図書・雑誌資料

(4) 感覚器官を中心としたもの

① 視覚資料

I 平面的資料 写真・絵画・掛け図・地図・ポスター・絵はがき・切り抜き・アルバム・紙芝居・立体鏡

II 静的映写資料 スライド・フィルムストリップ・実物幻灯・トランスペアレンシー・無声映画・その他

III 立体的資料 実物・標本・模型類

② 聴覚資料 蓄音機・レコード・テープレコード・ワイヤーレコード・ソノラマ・ラジオ・学校放送・シンクロリーダー類

③ 視聴覚資料 トーキー映画・テレビジョン・ビデオテープレコーダー・その他

④ 触覚資料 点字書・マウント標本

(5) 空間占有形態から

① 平面的資料

② 立体的資料

(6) 時間的経過面から

① 考古資料

② 古文書・古記録

③ 近世文書

(7) 地域面から

① 中央出版物

② 地方出版物

③ 郷土資料

上記3例を紹介したが、今後とも図書館資料は多様化すると思われる、このような類型は、前述の通り、論者やその図書館の目的・性格等により、どの類型、どんな資料構成を考えていくかにかかっている。

4. 図書館資料の特性

図 書

図書は通常、紙に書写または印刷され、適当な厚さに製本された資料を言